

令和 6 年度 芦屋市自立支援協議会 専門部会の進捗状況について

1. 令和 6 年度専門部会の取組み内容

今年度は令和 5 年度に引き続き『障がいのある人の「現在地」がわかるライフステージのフロー』と、前年度の実務者会で出た新しい課題である『情報がより普及・浸透するために、動画や画像など視覚情報を使うことで、イメージしやすく、気軽に「つながる」流れを作ること』というテーマも追加して取り組んだ。

2. 令和 6 年度専門部会の開催状況

	日時	場所	内容
第 1 回	令和 6 年 4 月 25 日	芦屋市保健 福祉センター	・今年度加わったテーマの確認 ・こどもチームとおとなチームに分かれて作業・意見交換 ・年間スケジュールの検討
第 2 回	令和 6 年 5 月 27 日	芦屋市保健 福祉センター	・2チームに分かれて作業・意見交換 ・あしやねっと♪の相談先リストの確認を集約
第 3 回	令和 6 年 6 月 24 日	芦屋市保健 福祉センター	・2チームに分かれて作業・意見交換 ・年表の QR コードから見れる情報をあしやねっと♪に 記載できるかどうか検討 ・動画について、必要な項目・内容の集約方法を検討
第 4 回	令和 6 年 7 月 29 日	芦屋市保健 福祉センター	・2チームに分かれて作業・意見交換 ・年表・QR コードのとび先の内容を検討 ・あしやねっと♪への編集内容検討
8 月 7 日 第 1 回本会議にて進捗を報告			
第 5 回	令和 6 年 9 月 26 日	芦屋市保健 福祉センター	・年表以外のページを検討・作成 グループに分かれて検討。事例〇〇さんの場合
第 6 回	令和 6 年 10 月 23 日	芦屋市保健 福祉センター	・年表以外のページの内容を検討・作成 ・ツールの名称を検討 → らいふ&すまいる ～えがお つなぐ あしやライフプラン～
第 7 回	令和 6 年 11 月 21 日	芦屋市保健 福祉センター	・ツールのデザインの検討、事例の作成・確認 ・配布先・活用/PR 方法検討
第 8 回	令和 6 年 12 月 13 日	芦屋市保健 福祉センター	・ツールの印刷サンプルを確認し、修正点・配色の検討 ・配布先、活用方法の検討
12 月 26 日 第 2 回本会議にて進捗を報告			
第 9 回	令和 7 年 1 月 9 日	木口 記念会館	・自立支援協議会 本会議での意見共有 ・ツール最終稿の確認
第 10 回	令和 7 年 2 月 26 日	芦屋市保健 福祉センター	・まるっと説明会での配布状況の報告 ・ツールの用語集について意見集約 ・配布先の確認 ・ツールの評価方法について検討 ・R6 年度専門部会 振り返り
3 月 25 日 第 3 回本会議にて活動実績を報告			

3. 令和 6 年度の活動実績と評価

昨年に引き続き、『ライフステージ全体を可視化できる仕組みづくり』を今年度の専門部会のテーマとし、『障がいのある人の「現在地」がわかるライフステージのフロー』作成に取り組んだ。2 年目はフローだけでは不足する情報をについて検討し、QR コードからあしやねっと♪や動画等の情報につながるよう編集を重ね、全 8 ページの冊子を作成した。

前年度様々な情報を共有している実績をベースに、構成メンバーはできるだけ継続可能な範囲でそのままスライドするとともに、新たに医療的ケア児コーディネーターも参画。ライフステージが変わるごとに起こる「支援の切れ目」、その支援の切れ目で知っておきたい制度や相談先、サポートファイルの活用、将来のための準備などがわかることを目的としたツールの作成を軸に、動画の活用とリニューアルされたあしやねっと♪の活用を進めた。

結果、冊子の構成は児童期・成人期の年表、事例、相談先一覧とシンプルだが、QR コードを活用することで、紙面以上の情報を盛り込むことができた。ライフステージ年表の紙面に掲載した QR コードの情報の中には、視覚的にわかりやすい動画も取り入れ、障がい福祉課と障がい者相談支援事業(保健福祉センター1 階の窓口)への相談経路を紹介する内容を作成した。また、これまでの専門部会で取り組んだ様々な既存ツールとの連携も意識しており、あしやねっと♪へ、紙面に掲載しきれない詳細な情報を掲載し QR コードでリンクさせることにより、ツールの情報とあしやねっと♪の情報、双方の充実を図ることができた。

今後の活用方法として、サポートファイル配布窓口で、適宜補助的なツールとして一緒にお渡しすることで、以前の専門部会で作成されたサポートファイルがさらに活用されることも期待している。今後、子どもや障がいに関係する部署や芦屋特別支援学校等に説明・依頼をしていく。また、周知のため、市内の当事者・ご家族の団体、市内の病院、教育関係機関、ツールに掲載されている事業所・関係機関に配布する。

障がいのある子どもの親御様や障がいに関わる多くの機関がそろって意見を交換し、それぞれの世代の必要なことや制度などの情報が共有でき、福祉だけでなく教育や保健との協働・連携の場となった。会議の回数は例年に比べ多かったが、芦屋の現在の情報がたくさん詰まった内容に仕上がった。

最終回では、今後のツールの評価方法の検討と 2 か年の振り返りと評価を行った。ツールの今後の評価の方法については、専門部会は単年度で解散するため、専門部会の中で後追いの調査や今後の評価を行うことは難しいことを確認し、まずは「情報を必要としている人の手に配布できた」という部分を成果/評価点とみてよいのではないかという意見があった。評価方法として考えられるとすれば、作成から 3 年後に、実務者会や自立支援協議会で議題に挙げて評価してもらうのも一つではないか。また、座談会、目安箱のような形で運用後の意見が見えてくる可能性があるなどの意見があった。

最後に令和 5 年度・6 年度の取り組み計画に対する達成率については、90%と評価をした。それぞれの年度当初の計画に書かれていた目的はほぼ達成できたと感じており、その意味では達成率は 100%という見解も多かった。一方、作っていく中で新たな課題が見えてきた。例えばリアルタイムの情報発信については課題が残ること、また、見やすい情報(動画等)についてはどこまで反映できたか評価が難しいこと、細かな精度についてはまだ伸びしろがある、もっとこんな風になったらいいな、とさらに取り組める部分が残っていると感じるなどの意見も考慮し、達成率は 90%と評価をした。